

国際海運からの GHG 削減に関する議論も進展なし

～国連気候変動枠組条約第 16 回締約国会議の様相～

国連気候変動枠組条約（UNFCCC）の第 16 回締約国会議（COP16）が、2010 年 11 月 29 日から 12 月 10 日まで、メキシコ・カンクンにおいて開催された。わが国からは、松本環境大臣はじめ外務省、経済産業省、環境省、農林水産省、国土交通省等の関係者が出席した。

(1) 経緯

UNFCCC は、大気中の温室効果ガス（GHG）の濃度を安定化させるため、1997 年に先進国に対し法的拘束力のある削減目標を課した京都議定書を採択したが、同削減目標の期間は 2012 年までであることから、2013 年以降の枠組みについて引き続き議論されてきた。しかしながら、途上国を含む主要排出国が参加する包括的枠組みの構築を目指す先進国と、“共通だが差異ある責任”の原則^(*)から削減義務を回避したい途上国とが対立し、議論が進展しなかった。2009 年 12 月の COP15 では、新たな枠組みの道筋を示すコペンハーゲン合意を多くの国が支持したものの、わずか 5 カ国の反対により正式合意に至らず、今次会合に議論が持ち越された。

(2) 全体の概要

EU、日本等の先進国は、米中を含む主要排出国が参加する公平かつ実効的な枠組みの構築を目指すべきとの立場で参加した。一方、中国、インド等の途上国は、COP15 のコペンハーゲン合意に同意していたにもかかわらず、2013 年からスタートでき規制の空白期間を生じることがないとして、京都議定書の延長を強く主張し意見が対立した。その後、EU、豪州等が合意の形成を優先し、同議定書の延長を容認する姿勢に転じたため、同議定書の延長に反対する日本、ロシア等に非難の声が集まる状況となった。これに対して日本等は、京都議定書において削減義務のかかる国の CO₂ 排出量は世界全体のわずか約 27%であり、現在の枠組みの延長は公平性、実効性に欠けることなどを各国に粘り強く働きかけた結果、概略以下の「カンクン合意」が採択された。

同合意では、京都議定書を延長するかどうかや、新たな枠組みの詳細については COP17 の議論に先送りされたものの、コペンハーゲン合意に基づくすべての主要排出国が参加する包括的な枠組みの実現に向け一定の前進が見られた。

なお、次回 COP17 は 2011 年 11 月に南アフリカ・ダーバンにおいて開催される。

京都議定書

- 世界的に必要な削減量を算出した上で、それを先進国に割振り、削減義務を負わせる**トップダウン型の仕組み**。
途上国は削減義務なし
- 未達の場合は、**国際クレジットの購入などの罰則付き**

コペンハーゲン合意 (合意できず“留意”にとどまる)

- 先進国・**途上国**各国が自ら進んで取り組む目標・行動を国際的に約束する**ボトムアップ型の仕組み**
- その達成度合いを相互にチェック
- 罰則なし

カンクン合意

- **コペンハーゲン合意の内容を正式に合意**
 - 産業革命からの気温上昇を 2 度以内に抑えるとの観点からの大幅な削減の必要を認識
 - 各国が自ら取り組む削減目標・行動を設定
 - 各国の削減行動を一定の手続きに従い測定・報告・検証
 - 温暖化で生じる被害への対策を進める「カンクン適応枠組み」の設立
 - 途上国支援のための「グリーン気候基金」の設立
- 京都議定書の延長についても引き続き議論
- ただし、日本、ロシア等**京都議定書延長に反対する国の立場を拘束するものではないことも明記**

(3) 国際海運に関する審議

国際海運・国際航空分野から排出される GHG の取り扱いについては、農業分野とともに、“セクター別アプローチ”として整理され、審議されてきた。今次会合では、同アプローチに“共通だが差異ある責任”の原則^(*)を盛り込むよう主張する途上国に対し、先進国が、すべての船舶には一律の規制を適用すべきとして反対し、最後まで合意点を見つけないことができず決裂した。そのため、カンクン合意ではセクター別アプローチの記述は見送られた。

また、本年 2 月に潘基文国連事務総長のイニシアチブの下に設置された気候変動資金に関するハイレベル諮問グループ（AGF）が、途上国支援のための資金の調達先の 1 つとして海運が有力であるなどとする審議レポートを COP16 に提出した。今次会合では特設議論は深まらなかったが、新設された「グリーン気候基金」の具体化において再び議論の俎上にのぼる可能性があり、今後の動向に注意が必要である。

* 地球温暖化への責任は世界各国に共通するが、今日ある大気中の温室効果ガスの多くは先進国が過去に発生したものであることから、先進国と途上国の責任に差をつけることを謳った概念